

第87回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：令和2年3月30日（月） 10：00－10：30

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

（1）委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、折木委員、中須賀委員、山崎委員

（2）政府側

竹本宇宙政策担当大臣、平宇宙政策担当副大臣

和泉総理大臣補佐官

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

松尾事務局長、行松審議官、滝澤参事官、中里参事官、森参事官、吉田参事官

（3）オブザーバー

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 山川理事長

4. 議事

（1）「次期宇宙基本計画（案）について」資料1、資料2を用いて事務局より説明を行い、宇宙政策委員会として原案どおり了承をした。委員からは以下の様な意見があった。（以下、○委員からの意見）

○中須賀委員：半年にわたりまして、この基本計画をつくってまいりましたけれども、簡単に全体の概要といいますか、感想を御紹介させていただきたいと思います。

8つのワーキンググループをつくって、関係するいろいろな方々と深い議論をしてまいりました。5年前にこの1個前の基本計画ができました。そのときは私と山川先生と2人で頑張って作成したのですけれども、そこでは安全保障を含めた利用の強化、産業基盤の強化といったことを盛り込みまして、ある程度の成果を得ました。

ところが、そこからやはり世界を見ると物すごい勢いで変化してきた。先ほど御紹介ありましたけれども、安全保障利用をはじめとした観点、技術の観点、国際連携の観点、いろいろな面でこれに対応していかなければいけないという危機感というものがこの基本計画をつくる一つのベースになったと思っております。

大事なことはたくさんあって、この基本計画の中に盛り込ませていただきましたけれども、やはり一番大事なのは、宇宙を最大限使って、これを経済成長の起爆剤として使っていくことに国として、あるいは政府全体としてコミットしていくことが大事かと思います。そのためには、例えば技術をつくる側、衛星とかロケットを造る側と

しては、使っていただく、あるいは産業につながるという観点でしっかりと計画を立ててつくっていかなければいけない。使う側は、宇宙を使ったほうが効率的であるものはどんどん宇宙を使っていただきたい。こういう世界を日本としてつくっていかなければいけないということを強く盛り込んでまいりました。本当に世界がそういう方向になっていることを生かして、安全保障、産業、いろいろなところにこの宇宙を使っていくということをいま一度強化するというのがひとつ大きな大事な柱。その一つのキーワードが、自立した宇宙利用大国という言葉になったのだと思います。

そのためには、やはり技術側も新しい技術をどんどんつくっていかなければいけない。これまで政府衛星しかなかったのです。そうすると、大きなちゃんとした政府衛星の中でなかなか新しい技術を試していくことができなかった。これをいま一度、強化して、こういう政府衛星だけではなくて、ちゃんといろいろな新しい技術を試していくような衛星をシリーズ化していく。いわゆるプログラムとしてしっかりと取り入れていくことによって、例えば今、世界で起こっておりますデジタル化ーション、デジタルトランスフォーメーション、それから、小型、超小型のコンステレーションとか量子暗号、光通信、いろいろな技術が出てくる。その試す場をぜひつくっていきたい。そのためには、頻繁にタイムリーな実証をどんどんやっていくという世界が必要だと思います。そういったものの中で、本当に産業あるいは利用に役に立つような技術が培われていく世界をもう一回つくっていきたいと強く考えております。

全部は申し上げませんけれども、そういったことがちりばめられた基本計画で、いよいよこれからこれを実行、実現するということがスタートします。まさに工程表をつくって考えていかなければいけませんけれども、大事なことは誰がやるのかということを明確にしていきたい。誰がやるのかが書いていないような計画は、恐らく誰もやらないで終わってしまう。これがこれまで宇宙開発の世界でたくさん行われてきたのではないいかと思って、誰がやるのかを明確にしたいということ。それから、一時的ではなくて継続性です。宇宙は足が長いですから、継続的にやっていかなければいけないので、これをしっかりと入れていくということ。

もう一つは、いろいろな戦略を立てることが必要なのですけれども、そのためにはしっかりとした調査、分析をしていかなければいけない。こういったことに意識を与えるながらしっかりとした工程表をつくっていきたいと思います。

そんなことで、まずは一段落、この基本計画はできましたけれども、まだこれから工程表をつくって、これを実行、実現していくという段階が待っておりますので、ぜひ引き続き御支援いただければと思うところでございます。

○後藤委員（事務局より代弁）：まず、基本計画案の内容については、必要な事項は盛り込まれており、異論はありません。2点目ですけれども、今後、肝心なことは、これらの事項を実現するのに必要な予算をしっかりと確保し、この計画を絵に描いた餅にしないこと。それから、政府を挙げて、十分な予算の確保に最大限の努力をお願い

したい。内閣府には先頭に立って取り組んでほしい。(当日欠席のため事前のコメントを宇宙事務局が代読)

○松井委員長代理：中須賀部会長から基本政策部会の報告があったように、私もそれに関わっておりましたので、それにほとんど尽きているのですが、その中で出てこなかった点に関して、多少述べておきたいと思います。

まず、前回に比べると、この基本計画には科学探査という言葉が頻繁に登場しているということは、非常に大きな違いだろうと思います。特にそれと合わせて、宇宙が安全保障ということで戦闘の場になっているという認識は前回なかったことだろうと思います。しかも、それが低軌道だけではなくて、月軌道まで拡大している。そういう中にあって、国際宇宙探査、あるいはアルテミス計画というものが登場していて、日本としてはそういう観点からこれに参加していくことを決めた経緯があります。

その際、我々として一番危惧したのが、現行の予算の仕組みの中でこれに参加していくことはかなり無理がある。その場合には、科学探査というところにしわ寄せが来るのは目に見えておりまして、そういうこともありますて、危機感の反映として科学探査という言葉がいろいろなところに表れているのだろうと思います。

また、我が国が安全保障として世界に貢献するというときに、その一番の売り物は何かというと科学技術であって、この科学技術なくして日本が安全保障に貢献することはありえないという観点から考えると、特に重要な点は今、後藤委員のコメントになりましたように、予算の仕組みを抜本的に変えて今までとは違う体制で進めないと、ここに書いてある内容を実現することは難しい。その言葉が「政府を挙げて」という一言に尽きているだろうと。これは皆さん共有していると思いますが、ぜひ政府のほうにはこのことをお願いしておきたいと思います。

○山川JAXA理事長：今回は非常に力強い宇宙基本計画を策定していただきまして、誠にありがとうございます。JAXAとしては、研究開発機関として、実施機関として今後も全力で取り組みたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○折木委員：あとは、本当にこれをどう進めていくかという実行性の話と、スピードの話とそれを支える予算といいますか、そういう面が物すごく重要だらうと思っています。

これから具体的に進めていく中における工程表について、明確な目標を工程表の中で表していくことがこれから求められているのだろうなと強く認識をしました。

それと、本当に多角的に取りまとめていただいておりますので、とはいながらいろいろな制約も出てくると思いますので、政策的な面とか科学技術的な面で優先順位をある程度つけていくという重点指向の部分がどうしても求められてくると思っていますし、それをまたこれから御検討いただきたいと思っています。もちろん、内閣府の皆様が主体的にやっていただくと思いますけれども、また国家安全保障という観点からいえば、NSCとかNSSとの連携というものが物すごく大事なことになっていくもの

ではないかと思っていますので、その点でまた今後ともよろしくお願ひしたいと思っています。

○山崎委員：先週も申し上げましたけれども、まず、ここまで的基本計画の取りまとめに御尽力くださった事務局、ほかの省庁さんも含めて様々な関係者の皆様にお礼申し上げたいと思います。本当に昨今、そしてこれからますますスピードが大切になります。国際競争もかなり激化しております。また、社会課題への解決という観点も喫緊だと思っています。そのため、今後はいかに実行に移すかということで、やはりまだ宇宙を開発している人たちとそのユーザーの人たちの間のギャップがあることも事実だと思いますので、その間をいかにつなげて実装を強化していくかが大切だと思います。

そのためには、やはり各省庁をはじめ、ユーザーの皆様がきちんと役割を認識して今後の工程表の改訂においてきちんと明記した上で、予算もしっかりと確保しつつ、そのためには司令塔としての内閣府さんの役割も大きくなってくるかと思っています。

○青木委員：日本らしさ、日本とはどういう国かということがよく出たすばらしい宇宙基本計画だと思います。自立ということ、科学技術に基づいて宇宙探査が日本を表していくということ。そして、インド太平洋地域を維持・安定化するための宇宙でもあるということ。中須賀先生、松井先生のリーダーシップに深く感謝したいと思います。

以上